



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

謹啓 霖雨の候、皆様におかれましては益々御清祥の事とお慶び申し上げます。

伊勢神宮では、第六十三回神宮式年遷宮に向けての諸行事が着々と進められております。四月十二日・十三日には「御木曳初祭」が、そして同二十日から二十八日にかけて両宮及び各別宮にて「木造始祭」が斎行されました。また、身近な行事としては第一次の「お木曳行事」が五月より行われております。これから先、令和十五年までに様々な神事・行事が斎行されますので、逐次当社報を通じてご案内やご報告をさせていただきます。

また、本年は昭和百年を迎える年となり、天皇后両陛下は「過去の歴史から謙虚に学び、深い反省と共に平和を守るために必要なことを考え、将来へとつなげる努力を続ける事が大切」との思いで、昭和百年記念式典にご臨席遊ばされました。我々国民も、両陛下の思いと共に日々の生活を過ごして行きたいものです。

当社に於きましては、昨年の社報（十二月号）にて皆様にお願ひ申し上げました「まつり提灯」新調についての御協賛に、多くの方より赤誠溢るるご厚志を賜り、御陰をもちまして拝殿前提灯および屋形提灯の全てを新調致す事が出来ました。この真新しい提灯を掲げて本年の例大祭が賑々しく斎行する事が出来ました事をご報告させて頂き、此処に厚く御礼申し上げます。

さて、当社崇敬会では会の発足以来、伊勢神宮参拝研修旅行を毎年続けておりますが（コロナ禍では一時中止）コロナ禍以降は参加人数が大幅な減少傾向にあります。研修旅行では、普段では立ち入る事の出来ない清浄なる御垣内にて参拝が出来ます。会員の皆様にはこの静謐さを体験して頂きたい多くのご参加を願っております。

最後になりましたが、皆様方の益々の御健勝を心より祈念致し、ご挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

祭事報告

▼年越大祓

十二月三十日



〈 人形の焚き上げ 〉

昨年内最後の神事で、神職が殿内にて大祓詞を奏上した後、皆様が知らず知らず受け犯した罪や穢れを人形に託して忌み火にてお焚き上げしました。

▼元旦祭

一月一日

新年を迎えて最初の神事で、国の隆昌と世界の恒久平和を願い、総代役員参列のもと厳粛に齋行致しました。

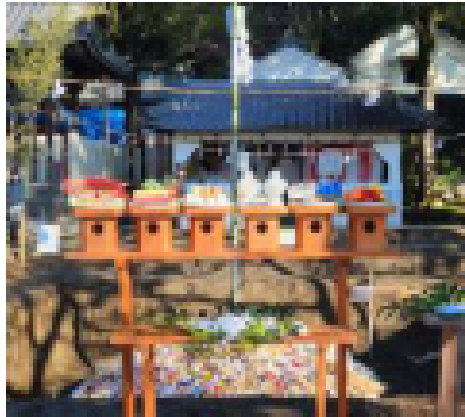
午前零時になると、拝殿前の鈴の音と参拝者の拍手や「おめでとう」の掛け声で、賑々しい一年の始まりを感じました。

▼左義長

一月十五日

昨年一年間にわたり、お護り戴きました御神符や御守を始め、正月の縁起物や正月飾りまた、注連縄等に感謝の祈りを込めてお焚き上げ致しました。

本年も氏子の皆様が、古神札などの仕分け作業を手伝って下さり、予定通りに昼頃には終了する事が出来ました。



〈 左義長 〉

▼浄火祭

二月三日

浄火祭は、ご祈祷を受けられた方がご神前へ奉る金幣串を始め、紅白串や祈願奉納された絵馬や帽子をお焚き上げし、諸願成就や厄祓いを願う神事です。



〈 浄火祭 〉

本年もまた、氏子区域にお住まいで厄年に該当する男性が、厄男として神事にご奉仕してくださいました。厄男の皆様は、絵馬や金幣串を手に取り、記載のお名前を読み上げた後「心願成就！」と唱えて、火の中へ投げ入れてゆきました。厄男の皆様は始めこそ緊張の面持ちでお仕えしておりましたが、神事が終わると、まさに厄が祓われたといった清々しい表情でした。

神事終了後より火の静まる迄愛用して古くなった帽子の焚き上げが出来る事も有り、多くの方が帽子を持ってご参拝になりました。

▼祈年祭

二月十五日

祈年祭は古来より、例祭・新嘗祭と並ぶ三大祭の一つとして重要な神事とされてきました。農作業の準備をするこの時期に五穀（米・麦・粟・豆・稗）豊穣を祈ると共に、ありとあらゆる産業の発展、そして皇室・国家の安泰を願い滞りなく齋行致しました。



〈 祈年祭 〉

▼鍬山神社例祭

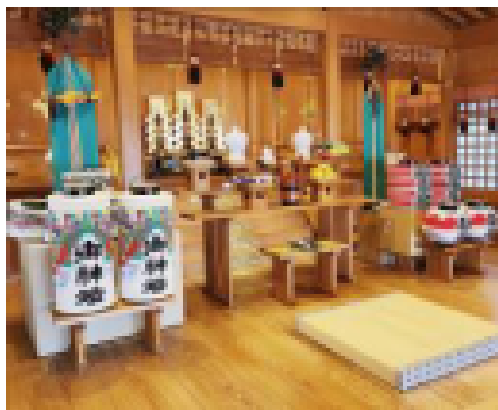
三月十七日

当社の境内社として本殿の北東に鎮座し、伊勢神宮（外宮）の神様である豊受大神をお祀りしております鍬山神社の例祭を齋行致しました。

▼提灯奉納奉告祭

三月二十日

昨年六月よりお願いをしておりました「まつり提灯」の新調におきまして、多くの崇敬篤き皆様のご協力を得て、素晴らしい屋形提灯と拝殿前提灯が完成致しましたことを、ご神前にてご奉告申し上げました。



〈 提灯奉納奉告祭 〉

▼例大祭

四月二日

本年の例大祭は、皆様方からの篤きご奉賛により新調させて頂きました、屋形二基の提灯と拝殿前の提灯を境内に掲げ、又下馬提灯も参道脇に並び、誠に華やかな例大祭となりました。

当日は天候にも恵まれ、午前九時に発興祭が行われると、元気一杯な子供神輿が町内を廻りました。

午後三時、昨年に続き岐阜県神社庁の本郷庁長を献幣史としてお迎えし、総勢九名の神職と五名の楽人により粛々と神事が斎行されました。

夜には真新しい提灯に火が灯り、なんとも神秘的な境内となりました。そんな中、遠くの方より子供達による打ち囃子の音が当社へ近づいてきて、午後七時頃、ご神前にて打ち囃子の奉納が行われ、今年の例大祭も無事に終了致しました。



〈 例大祭 子供神輿 〉

▼南宮神社例祭

五月四日

御首神社創建の由来に関わりの深い、美濃国一宮の南宮大社の御祭神であります金山彦大神を相殿社としてお祀りしております南宮神社の例祭を、恙無く斎行致しました。



〈 例大祭 新調された拝殿前提灯（上）と屋形提灯（下） 〉

▼お田植祭

六月六日

境内の神饌田前にて神事を執り行い、宮司の手により早苗の植え付けが行われました。この苗は神職が大切に育て、今年の新嘗祭に御神前に御供え致します。



〈 お田植え 〉

▼農休祭

六月十四日

田植えが無事に済んだ事への感謝をすると共に、稲が悪天候や害虫被害に遭う事無く、無事に成長する事を願う神事を、滞りなく斎行致しました。

▼月次祭

毎月一日・二十日に恙無く執り行いました。

※一月一日は元旦祭斎行のため、月次祭は行われませんでした。

『御神灯・御灯明』

多くの神社には、石製や木製の灯籠が並んでいます。また、お祭りには御神前に提灯を掲げて飾り付けをします。その形は様々有りますが、これらは全て御神灯または御灯明と呼ばれる物です。この御神灯の役割について簡単に説明致します。

御神前や参道を照らす照明であることは云うまでも有りませんが、主たる役割は、神様に捧げる「御供え」と言われています。古い時代、灯火用の油と言えば菜種油や胡麻油で、非常に高価な物でした。庶民が使う安価な魚油も有りましたが、それらは生臭く、明るさも植物油に劣っており、御神前に置くには不相当とされていきました。また当時の和蠟燭は、大変手間が掛かる上、職人の卓越した技量が必要な為やはり貴重品でした。これら希少で高価な燃料を、長時間に亘り点し続ける事が、穀物や野菜魚介と同等に御供えと考えられていたのです。

また、炎は邪悪を祓い清める性質のものとして扱われて来た歴史もあります。たき火などの炎を見つめていると、心が落ち着くように感じることが有りますが、それは炎が「内なる心」を清める力を持っているためです。炎を通して心を整える、炎の前に立って自分の心の中にある怒りや不安を沈めると言う精神的な祈りが、古代から受け継がれてきた祈りの形でもありません。後に、神仏習合の中で光は闇を切り開く聖なる物と言った思想も相まって、各地の神社仏閣に広がって行きました。

祭礼日に御神輿の巡幸する順路に当たる家々の玄関に、火を点した提灯を掲げる地域が有りますが、この行為も同じ意味を持ち、神様のお通りになる道中を照らし清め、御供えをしてお迎えをしていると言われています。また特別な提灯で神前を飾りたてる事によって威儀を保ち神社を中心とする地域にとって特別な日であることを広める役目も担っています。

即ち、これらの行為は古来より続いてきた伝統を守り、日本人の心を後世に伝える精神的な意味と役割が有るのではないのでしょうか。

近年では、安全性を考慮して炎から電球等に変える所も増えてきましたが、本来の在り方を理解した上での変換で有るならば、灯火の意味は変わる事無く伝統とその精神を受け継ぎ続けて行けるでしょう。

この度、皆様のご寄付により「まつり提灯」を新調することが出来ました。その真新しい提灯を目に焼き付け、この伝統と精神を末永く守りゆく思いを心に抱き続けてまいります。



〈 御神灯 〉

御首神社ホームページ
神職への質問Q&A

問 神社で「正式参拝」をする時に、服装によっては断られると聞きました。男性はスーツ女性には「それに準じた服装」とよく聞くのですが、実際どんな服装を着れば良いのでしょうか？

答 神宮を始めとする神社では「正式参拝」としてお参りする際、普段着やラフな格好ではお断りされる事でしょう。「正式参拝」は字の通り「正式」な参拝ですので、男女共に「正装」で臨まれる事が最も好ましいのですが、なかなか難しいと思います。その場合は「平服」（男性はスーツにネクタイ、女性はスーツまたはカジュアルではない服装）を選ばれますと無難かと思えます。

ただし、服装の規定が細かく定めて有る神社もございますので、正式参拝される予定の神社へ事前にご確認された上で、適切な服装にて参拝されます事をお勧め致します。

祭事案内

▼西宮神社例祭

七月十七日

商売繁盛や事業繁栄の御神徳
があります。蛭子命をお祀りする
西宮神社の例祭です。

▼末廣稻荷神社例祭

八月二日

京都の伏見稻荷大社より御分
霊を賜り、宇迦之御魂神をお祀
りしております。末廣稻荷神社の
例祭です。

例祭当日は、末廣稻荷神社の
参道に氏子の子供たちが描いて
くれた絵を行燈にして掲げ、夕
方には火を灯します。



〈 末廣稻荷神社 〉

▼夏越大祓

八月二日



〈 茅の輪 〉

当社では毎年夏に行われる神
事で、皆様が半年間の内に知ら
ず知らずに受け犯している罪・
穢れを人形（ひとがた）に託し
てお焚き上げし、残りの半年を
無事健康に暮らせませすよう願
います。

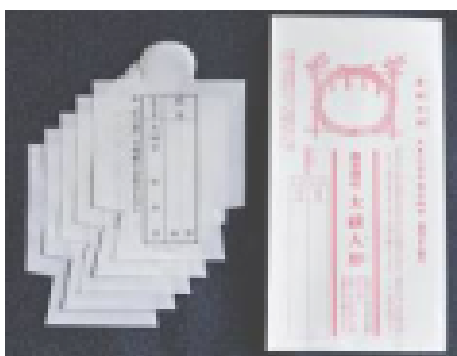
神事は、末廣稻荷神社例祭終
了後に、境内の遥拝所前（車
お祓いをする所）にて斎行され
ます。神事の後に「茅の輪くぐ
り」が行われ、ご参列の皆様は
神職に続いて茅の輪くぐりをし
て頂きます。

茅の輪くぐりは、当日の日没
までご参加頂けますので、皆様
揃ってご参拝下さい。

夏越大祓へのお申し込み方法
は、人形に氏名と生年月日を記
入し、身体をなでて、息を吹き
かけて下さい。人形は一人一枚
となりますので、不足の際は各
自ご奉製下さい。

尚、人形と申込封筒は社頭
にご用意しておりますので、必
要事項をご記入になり、申込封
筒にお志しと共に納め、社務所
にお申し込み下さい。

尚、ご不明の点は社務所にて
お尋ね下さい。



〈 左：人形・右：申込封筒 〉

※封筒のデザインは変わる場合があります

▼神明神社例祭

十月十七日

当社の境内社として本殿の北
西に鎮座し、天照大神をお祀り
する神明神社の例祭です。

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の
諸病を憂うる者此の社に願え
ば靈験あらたか」と伝わ
りし御首神社の御神徳に感謝
し、ご家族の諸病平癒・無病
息災・家内安全・生業繁栄な
らびに子孫繁栄を願う崇敬者
の会として設立されました。
入会を希望されます方は、
社務所までご一報下さい。
早々に案内資料をご用意さ
せて戴きます。

会員の特典（抜粋）

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施
- ・及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・昇殿参拝

会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

〈お問い合わせ先〉

神社社務所まで

〇五八四一九一―三七〇〇

祭事案内

▼七五三

十月

三歳・五歳・七歳と言う成長の節目に神社に参拝し、これまでの無事成長を感謝し、これから先の健やかな成長を願うものです。

その昔、男児女兒ともに髪を剃る習慣があつたとされ、三歳になると髪を伸ばし始める歳と定め、三歳の七五三を「髪置き

の儀」と呼びます。また、五歳は男の子が袴を履き始める歳として、五歳の七五三を「袴着の義」と言います。



令和8年 七五三

	数え歳	満年齢
	令和	令和
7歳	2年 生まれ	元年 生まれ
	令和	令和
5歳	4年 生まれ	3年 生まれ
	令和	令和
3歳	6年 生まれ	5年 生まれ
	令和	令和

そして、七歳は女の子が子供用の帯から大人の帯を締め始める歳になるため、七歳の七五三を「帯解きの儀」と呼ぶようになったと伝わっております。

お祝いの年齢は古くから数え歳でありましたが、現在では満年齢で数えられる方も沢山お見えます。また、男女共に三歳・五歳・七歳でお参りされる方も増えてまいりました。

記載の年齢表をご参考の上、ご都合に合わせてご家族皆様で是非とも当社へご参拝下さい。尚、七五三のご祈禱は十月から年末にかけて随時お仕えいたしております。(予約不要)

▼崇敬会大祭

十一月三日

年に一度、当社崇敬会会員の皆様の無病息災・家内安全・生業繁栄・子孫繁栄を願い行われます。当日は、県内外より多くの会員の方が集まり、会員皆様それぞれ交流を深めておられます。

また、ご参列の会員の皆様には大祭祈禱神符が授与されます。(一家族一体授与)

▼新嘗祭

十一月二十三日

例祭・祈年祭と並ぶ三大祭の一つとして、古より大切な神事として行われて来りました。

その年の五穀豊穡への感謝を申し上げ、初物を神様に食して頂き、皇室のご安泰、国家の安寧を願います。

また、境内の神饌田にて収穫された御初穂もご神前にお供え致します。

▼月次祭

毎月一日・二十日

末廣稻荷神社 参道幟 募集中

境内東に鎮座する、末廣稻荷神社の参道脇に立ち並ぶ朱色の幟旗は、末廣稻荷神社の八月の例祭とお正月に合わせて新調し、約半年間に亘り参道に掲げられます。



八月取替予定の幟の申込にはまだ余裕がございますので、奉納ご希望の方は社務所までお申込下さい。

*幟一對 初穂料 三千元

編集後記

今号は、まつり提灯ご奉賛者名簿を掲載させて頂きました都合上、頁数を増やしてお届けいたしました。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一
Eメール shamusyo@mikubi.or.jp
TEL(〇五八四)九一一三七〇〇